

vol.

福島県男女共生センター広報誌

未来館 NEWS

74

2020
SPRING

Public relations magazine
MIRAIKAN NEWS

「男女共同参画社会」の実現を目指す

特集

復興に向けた取組の先進事例を学ぶ スタディツアーリポート

出張授業します！「次世代スクールプロジェクト」「

福島県からのお知らせ」「女性のための電話相談ふくしま」「

福島県の〇〇女子！」「自動車女子」



特集 復興に向けた取組の先進事例を学ぶスタディツアー

地域づくりに関する仕事や活動等をしている女性を対象として、「復興に向けた取組の先進事例を学ぶスタディツアー」を実施しました。

地域おこし協力隊スタッフや双葉郡のまちづくり団体や自治体職員など、これから地域づくりの担い手となる約10名の皆さんのが参加しました。

コーディネーター(事業全体への助言や各回の進行・ファシリテート)

福島大学食農学類 ふくしま未来 食・農教育プログラム研究員
北村 育美さん

会場

「みんなの交流館 ならはCANvas」
※第3回を除く

	日時	内容
第1回 (学習)	7月17日(水) 13:30~15:30	自己紹介、地域コミュニティづくりの実践事例を学ぶ。
第2回 (企画)	8月22日(木) 13:30~15:30	スタディツアーの訪問先(宮城・岩手県の被災地域を想定)を決定する。
第3回 (スタディツアー)	10月30日(水)、 31日(木) ※1泊2日	スタディツアーを実施し、訪問先団体との意見交換や交流を深める。
第4回 (振り返り)	11月14日(木) 13:30~15:30	スタディツアーでの成果の共有等を行い、報告会に向けた準備をする。
第5回 (報告会)	12月11日(水) 13:30~15:30	これまでの研修成果を報告・発信するとともに、今後の活動に役立てるための提案をする。

第1回 学習

参加者同士の自己紹介等を行い、地域コミュニティづくりの実践事例を学びました。

①講演:「地域づくりに携わった実践事例から」

講師:NPO法人ぐらスタ(田村市復興応援隊)理事長 佐原 禅さん、松崎 亜美さん

②自己紹介、意見交換等



自己紹介や参加の意気込み等を話しました



これまでの成功・失敗事例と、これからの活動についてお話しいただきました

第2回 企画

3班に分かれて第3回で訪問(宮城・岩手県を想定)する候補団体の取組内容等について、インターネットで情報収集し、その調査内容を共有するなど、訪問先について検討しました。



3班に分かれ、視察先について情報収集しました



調べたことを発表し、全体で共有しました

第3回 スタディツアー

スタディツアーを実施し、訪問先団体との意見交換や交流を深めました。

30日…①「一般社団法人ウイーアーワン北上」(宮城県石巻市)

②「特定非営利活動法人ウイメンズアイ」(宮城県本吉郡南三陸町)

31日…③「一般社団法人SUMICA」(岩手県気仙郡住田町)

①「一般社団法人ウイーアーワン北上」(宮城県石巻市)

東日本大震災により壊滅的な被害を受けた石巻市北上町地域の皆さん(とりわけ女性)と共に「コミュニティ・なりわい・集落」の再生を柱に活動しています。



代表理事の佐藤尚美さん



地域づくりに女性の力をどう活かしてきたかを伺いました

②「特定非営利活動法人ウイメンズアイ」(宮城県本吉郡南三陸町)

女性たちが、「地域、社会につながる」「プラットフォームとなる」「必要な力を持つ機会をつくる」「災害を経験した女性たちの声を内外に届ける」ことで、女性が自らを活かし活躍できるための活動を行っています。



事務局長の栗林美知子さん



福島県出身の菅野瑞穂さんもメンバーとして活躍

③一般社団法人SUMICA(岩手県気仙郡住田町)

住民交流拠点『まちや世田米駅』を拠点として、「すみた」をつなぐをテーマに、地域活性化のための活動をジャンルにとらわれず住民とともに盛り上がる活動をしています。なお、副代表の植田さんは、世田米地区地域おこし協力隊時代の経験を活かして会の活動に取り組んでいます。



ビュッフェスタイルで地元食材を使用したランチも提供しています

第4回 振り返り

スタディツアでの成果の共有等を行い、報告会に向けた準備をしました。3班に分かれ、撮影した視察先の写真などを見ながら、振り返りと報告会の発表資料を作成しました。



第5回 報告会

これまで話し合いや視察での成果発表(班ごと・個人)を行いました。コメントーターとして第1回講師の佐原 禅さん、松崎 亜美さんをお招きし、住民が主体的に地域づくりに関わるための仕掛け(企画や集客を住民に頼ることで主体的に関わってもらうなど)の必要性や、活動の継続のために支援者自身のケアが重要であること、参加者同士は大切な仲間であり連携を深めて自分の地域での活動をより進められることを期待するなどの話をいただきました。また、北村コーディネーター、千葉館長、中川浩然県男女共生課長からも本事業全般についてのご意見やアドバイス等をいただきました。



班ごとに成果報告を発表しました

② 参加者アンケートから

今、自分がしていることが正しいのか分からず、悩んでいましたが、講師の話などを聞き、自信が持てるようになりました。このスタディツアに参加しなければもやもやしたままだったと思います。

日々の忙しさに追われ、立ち止まってじっくりと自分を見つめ直したり、まちづくりについて考えることができずになりましたが、毎回のこの時間が本当にリフレッシュできた時間となりました。

今回の受講者の方々は、立場や状況は異なりますが、皆同じ問題を抱えていることが分かりました。同じように頑張っている女性がいることを知って、また、地域を超えたつながりができ嬉しく思います。

事業の成果と今後に向けて

スタディツアで訪問した3団体は、いずれも女性が主体的に関わっており、女性が地域づくりの活動に参画する実例を直接感じられたことは大変参考になったと思われます。今回参加された皆さん、本事業での気づきや学んだことを生かしてさらにご活躍されることを期待しています。また、当センターとしても引き続き連携協力して福島の復興に取り組んでいきます。

参加者に
お話を伺いました。

NPO法人広野わいわいプロジェクト
大場美奈さん



お話を伺った大場さん

●お仕事は?

1つは広野町起業型地域おこし協力隊として任期終了後に広野町で起業するために、地域の課題に取り組みながら、準備をしています。もう1つは、県立ふたば未来学園内のカフェの統括をしています。

●参加のきっかけは?

所属している団体の事務局長から勧められて、自分でも視野を広げたいと思って、参加しました。

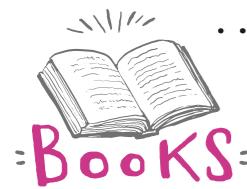
●感想や印象に残ったことは?

参加する前は、常に頑張ろう、やらなきゃいけないと力が入っていましたが、地域づくりは自分が楽しんでやらないと自分も周りもしんどくなるし、継続できないとわかりました。今後のヒントになることがたくさん得られ、活動がやりやすくなり、企画が形になったり、継続したりして、活動が進むようになりました。また、今回のスタディツアに参加した皆さんとつながりができたことが、嬉しいです。

SUMICAさんのお話が一番印象に残っています。私がやりたい活動に近かったことと、楽しんで活動をしているところ、上手にリフレッシュしているところが羨ましいと思いました。

●今後の活動について

広野町は、「教育の丘」と呼ばれるこども園、小中高校、児童館の教育機関が整備されており、子育て世代が多く帰還しています。例えば、お母さんたちの居場所づくりとして、少し体を動かしてリフレッシュできる場所を提供したいと考えています。その他にも様々な企画を計画中で、これからも私が楽しんで活動ていきたいと思っています。



センター図書室の

「被災・復興」に関するオススメ本

【復興から自立への「ものづくり】

福島のおかあさんが作ったくまのぬいぐるみはなぜパリで絶賛されたのか】

【分類 S/2205/H】飛田恵美子/著 小学館 2019年

東日本大震災後、被災地の各地で伝統工芸や未利用資源を生かした、ものづくりプロジェクトが数多く生まれました。主な担い手は子育て中のお母さんや高齢の女性たちが中心です。つくり手インタビューでは、震災時の状況や仮設暮らしの思い出、商品に込める想い、これらの夢が熱く語られています。



【福島のお母さん、いま、希望は見えますか?】

【分類 S/3203/H】棚澤明子/著 彩流社 2019年

真夜中に子どもを連れて県外に避難した人、家族と話し合い避難しないことを選んだ人、3・11以降さまざまな選択を迫られ続けた母親たちの声を集めたインタビュー集です。被災地となった故郷を思い日々過ごす彼女たちの苦悩は、いまだに収まることはありません。前著『福島のお母さん、聞かせて、その小さな声を』【分類 S/3203/H】も併せてお読みください。



問い合わせ 福島県男女共生センター図書室
電話:0243-23-8308

開館時間 9~20時
(休館日前日は17時、休館日は月曜日)



出張授業します! 次世代スクールプロジェクト

福島県男女共生センターでは、職員(県派遣教員)による出前授業を実施しています。

今年度も県内の多くの学校で、男女共同参画の現状やLGBTQなどの多様な性、デートDV防止やハラスメントの防止、性別にとらわれない職業選択など様々なテーマによる授業を行っています。児童・生徒が人権や男女共同参画について考え、自分らしく生きることの大切さに気づくきっかけになるかもしれません。

あなたの街にも無料で出張します!各学校からのご依頼・ご相談、お待ちしています。

詳しくはセンターのホームページをご覧ください。(スケジュールの都合上、お受けできない場合もございます。ご了承ください。)

参加者の声

自分も小さいころ、男っぽいと思われたくないくて夢を隠していたことがあった。でも、気にせずに自分の就きたい職を選びたいと思った。
(中学3年生)

周りにマイノリティの人がないから…と言って他人事にとらえていたLGBTが身近になり、自分にも当てはまるところがあると思った。
(高校3年生)

僕はこの授業をやって、お母さんや家族と協力して家庭の仕事をやりたくなりました。
(小学5年生)

【問い合わせ】福島県男女共生センター 事業課 電話:0243-23-8304

福島県からのお知らせ

女性のための電話相談(面接相談)ふくしま

東日本大震災以降、長引く避難生活や放射線への不安などから様々なストレスを抱え込んでいませんか?家族のこと、仕事のこと、近所付き合いのことなど、女性の相談員がご相談をお受けします。

電話番号 0120-207-440

相談時間 月~金(祝日除く)10:00~17:00

●通話料無料のフリーコールです。

●秘密は厳守します。匿名での相談が可能です。

●福島県民及び県外へ避難している方も対象です。

○面接相談(いわき市)の予約も受け付けます。

【問い合わせ】福島県男女共生課 電話:024-521-7188

福祉機器展示室

利用案内

当センターの福祉機器展示室は、600点以上の福祉用具やユニバーサルデザイングッズを「見て、触れて、体験する」ことができます。また、介護や住宅改修に関する相談をお受けしております。

新たに展示することになった福祉用具を紹介します。ぜひ、実際にご覧ください。

WHILL Model C(ウィル モデルシー)

次世代型電動車椅子。5cmの段差を乗り越えられます。小回りが効き、誰でも安心して使うことができます。簡単に分解でき、車にも乗せることができます。



介護リフトつるべ床走行リフトY6

床走行式リフトが苦手とする旋回を軽くするため開発された新発想リフト。6輪の自在キャスターで狭い部屋でも楽に動かすことができます。脚部下部の開放によりリクライニング車椅子でも正面からアプローチできます。床からの移乗にも適しています。

【問い合わせ】福島県男女共生センター福祉機器展示室 電話:0243-23-8316 【開館時間】9~12時、13~17時(休館日は月曜日)

○○女子!

今回は、男性の仕事というイメージのある自動車業界で働く、一般社団法人福島県自動車整備振興会(以下:振興会)の佐久間しほりさんにお話を伺いました。振興会によると、県内の3級自動車整備士資格延べ取得者数は約1万9千人、2級自動車整備士資格延べ取得者数は約1万4千人、1級自動車整備士資格取得者数は279人いるそうです。その中で、佐久間さんは、県内で3人しかいない女性の1級自動車整備士で、自動車整備士養成と各種研修会、試験関係に携わっています。



佐久間しほりさん

「自動車女子」

——・佐久間しほりさん

○1級小型自動車整備士の資格取得のきっかけ

父がものづくりが好きで、幼い頃から機械や工具などは身近なものでした。父の作業を見たり、機械を分解したりするうちに、ものづくりに興味を持ちました。

中学生の時に自動車に興味を持ち、自動車の勉強がしたいと思いました。高校卒業後、ガソリンとジーゼルの2級自動車整備士の資格が取得できる専門学校で2年間勉強し、さらに専門知識を学びたいと、1級自動車整備士の資格が取得できるコースに進み、資格を取得しました。自分の目標をいつでも応援してくれた両親にはとても感謝しています。

卒業後の進路についていろいろと考えましたが、結婚や出産をしても長く自動車業界に関われる仕事がしたいと思い、振興会に就職しました。最初は教育課に配属され、自動車整備士養成講習の指導員や各種研修会や整備士試験の申請手続きなどの仕事をしておりました。

現在は総務課で働いておりますが、忙しい時は窓口対応や整備士試験の申請手続き、整備に関する相談など、専門知識を活かし、仕事をしております。



○仕事をしていてやりがいを感じていること

振興会の自動車整備士養成講習は、国の認可を受け、主に高校を卒業後、仕事をしながら自動車整備士の資格取得を目指します。受講生は土日に講習を行い、平日は仕事をしながら勉強することになるので、大変だと思いますが、熱心に取り組んでいました。半年間の講習を受けた受講生が試験に合格し、無事に資格を取得できた時はホッと安心しますし、その後、各種研修会や上級の資格を目指し頑張っている姿を見ると、とても嬉しく、やりがいを感じました。

まだまだ、自動車整備士は男性の仕事というイメージが強く、女性だからという理由で「何も分からぬのでは?」と思われがちですが、専門的な資格は強みですし、聞かれたことはすぐ答えられるように新しい技術やシステムを勉強しています。

育児休業取得後、子どもを保育園に預けて復職したいと希望し、土日がお休みの総務課に異動になりました。職場の理解と協力があり、仕事と家庭を両立し、自動車業界で働き続けていくことにやりがいを感じています。

○今後、取り組んでみたいこと

振興会で実施している自動車整備士養成講習にも女性の受講生が増えており、県内の女性整備士は少しずつですが増えてきていますので、そのことを多くの方に知ってほしいと思います。そして、今後ますます女性整備士が増えてくれると嬉しいです。

自動車に関わる仕事に就くことができ、育児休業後も仕事を続けていくように職場環境を整えてくださっていることとても感謝しています。自動車業界に関わる方々や、いつも支えてくれている家族のためにも、振興会の事業を通して、自動車業界に貢献できるように、私にできることに取り組んでいきたいと思います。

一般社団法人福島県自動車整備振興会

福島市吉倉字吉田5

電話:024-546-3451

